



「...日陰の側の歩道に立ちどまって、向かいの大きな窓を見守った。明るいガラスが日を照り返している。車の流れで眺めがさえぎられていたが、一つだけたしかながあった。窓にはカーテンが引かれている。」

マイ・シューヴァル、ペール・ヴァールー 『密室』 1972年

スウェーデンでは、その理想的なシステムが社会から人間性を減じ、その長い冬が人と人との距離を培い育て、ちいさな輪、さらには孤独のうちに人々を留まらせているように見えた。

「スカンジナビアン・ノワール」の先駆者であり、共産主義者のシューヴァル=ヴァールーによる有名な犯罪小説を手掛かりに、私の眼差したスウェーデン社会の構造や精神性をとある塗り込められた窓に投影する。

機能不全の建築要素

スウェーデン・マルメの美術学校の向かいにある塗り込められた窓は、内なる空間をほのめかしつつも、視覚的にも物理的にも外からのアクセスを拒否している。その横には、『密室』を含む人気犯罪小説シリーズ「マーティン・ベック」が書かれた地と記した表示板が掲げられている。

閉ざされた物語の偶然の一致

シューヴァル=ヴァールーは、社会を映す鏡として犯罪と捜査を用いた「マーティン・ベック」シリーズを執筆。1965年から10年間、社会環境とその変遷を叙述し、批判した。『密室』はその時代の社会に立ち込めていた閉鎖的な雰囲気を描写している。1984年、建物は当時の建築基準に合わせて全改修された。件の窓を塗り込められ、そこにゴミ集積室が作られた。1990年代、スウェーデンに歴史ブームが訪れる。地方紙は、その封印された窓の隣りに、作家夫妻が居住、執筆した場所として記念掲示板を設置した。

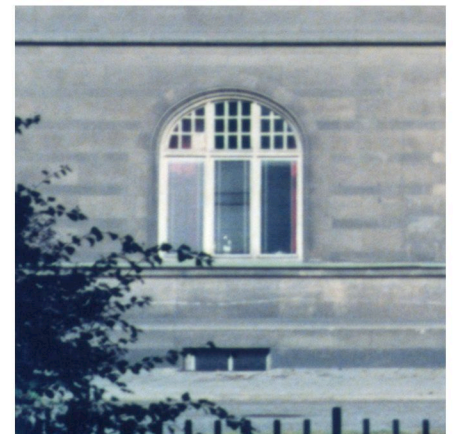
パリンペストの判読

インスタレーションでは、壁の上に三つの異なる時代の窓の像が重ねられる—2005年に私が撮影したものはデジタル画像、建物の所有者による1984年の改修記録は35mmスライド、作家夫妻が住んでいた1976年のマイ・シューヴァル本人によるスナップ写真は中判スライドで。

インスタレーションの構成により、観客はプロジェクターの前を通り、最新の画像からより過去のものへと遡るようにプロジェクションを遮ることになる。層を成す投射された映像に影を落とすことで、観客はファサードに刻まれ、蓄積された歴史を読み解き始める。



(左頁、上から下) 観客の影の中、埋もれていた映像の層があらわになる; インスタレーションの構成スケッチおよびインスタレーションの様子 (右頁、時計回り) 小説からの引用; 2005年の画像; 1984年の画像; 1976年の画像



Det slutna rummet (Eng: The Locked Room) 密室

2007

インスタレーション (プロジェクター3種 [中判スライド、35mmスライド、デジタル]、仮設壁)
スウェーデン・マルメおよびストックホルム / マルメ市美術館 所蔵